

第20回 東京鶴翔同窓会のご案内

—20回記念合同合期会／特別公演 黒川能・狂言—



第20号
号外



(1)日 時 平成2年6月22日(金)

受付 午後5時30分より

開会 午後6時

閉会 午後9時

(2)会 費 7,000円

御家族の同伴大歓迎

(御家族会費 5,000円)

(3)会 場 (東京農林年金会館)

虎ノ門 パストラル

港区虎ノ門4-1-1

☎432-7261

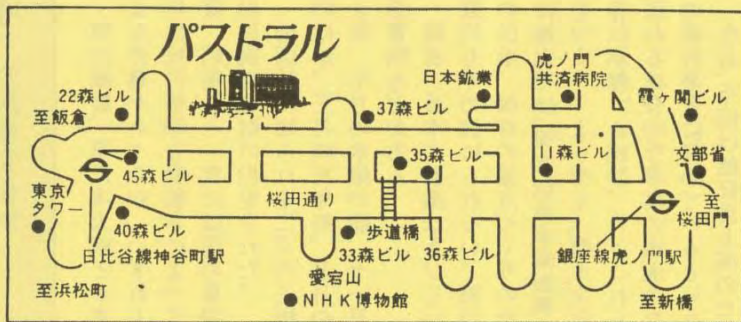
■〈交通〉 地下鉄日比谷線神谷町駅より2分

(下の図参照)

(4)出欠のご連絡

同封のがきを、5月31日迄に……。

※特別公演の「黒川能・狂言」については裏面をどうぞ。



《東京鶴翔同窓会20年の歩み》

20年と言えば、一つの区切り。そこで簡単に、その歩みを記しておきます。

- ・ 1回 昭和46年 会場／野村ビル 出席者 未確認ー以下、会員出席者(ー内の来賓を省略)
 - ・ 2回 昭和47年 新宿ビッグチヤイナ 209(15)
 - ・ 3回 昭和48年 会場 出席者 数未確認
 - ・ 4回 昭和49年 上野東天紅
 - ・ 265(15) この年に会報「鶴翔」を創刊。
 - ・ 5回 昭和50年 上野東天紅
 - ・ 184(11)
 - ・ 6回 昭和51年 東京会館
 - ・ 155(8)
 - ・ 7回 昭和52年 上野東天江
 - ・ 125(7)
 - ・ 8回 昭和53年 グランド・パレス 145(5) 如松と合同
 - ・ 9回 昭和54年 東商スカイルム 149(9)
 - ・ 10回 昭和55年 銀座東急ホテル 出席者未確認
 - ・ 11回 昭和56年 竹橋会館 211(13)
 - ・ 12回 昭和57年 海運ビル 193(14)
 - ・ 13回 昭和58年 グランド・パレス 238(15) 如松と合同
 - ・ 14回 昭和59年 学士会館 178
 - ・ 15回 昭和60年 海運ビル 出席者未確認
 - ・ 16回 昭和61年 海運ビル 218(24)
 - ・ 17回 昭和62年 海運ビル 228(22)
 - ・ 18回 昭和63年 虎ノ門パストラル 254(18) 如松と合同
 - ・ 19回 浅草雷5656会館 215(15)
- なお会長は、初代田倉八郎氏
二代佐藤寛一氏、三代相良守峯氏
四代梅津正吉氏、五代相馬龍夫氏
また会費は第1回が2000円
第10回ごろが5500円となっている。



★黒川能

田を守りつつ四百年の歴史を守った民俗文化財

幼い日、庄内神社や鳥明神様の薄暗い神殿のろうそくの灯ゆらぐ中で、黒川能と出会った人も少ないのではなからうか。

六月二十二日、その黒川能の人々が会場に来てくれる。

・農民が支える五百年の神事

黒川は、鶴岡市の東南8キロ、羽黒山と金峯山、母狩丘に囲まれた庄内平野の赤川ぞいにある。正しくは東田川郡櫛引町大字黒川能を演ずるのは、黒川の鎮守、春日神社の氏子の人々である。

黒川能は、世阿弥が大成したあとの猿楽流の流れを汲んでいる。その意味では現在の観世・金春・宝生・金剛・喜多の、いわゆる五流の能と同系であるが、現五流には亡びてしまった演目や演式が数

多く残されている。このような高度の芸能が、少なく見ついても五百年、信仰を支えに、すべて農民の手によって伝えられてきた。

黒川能が、その名を中央に知られたのは、江戸時代後期からのようである。

・伝承に努める地元の現況

江戸時代、農村の窮乏により能座の活動も危ぶまれた時に、藩主酒井侯の命で城内演能が敢行されそれが藩主の高い評価をうけ、以後招かれての出張公演、能の伝授などが行われた。

黒川能が現在も八月十五日、酒井の殿様を祀る鶴岡の庄内神社への奉納をかかさないと、この時の恩義を感じてのことだといわれている。

明治維新、第二次大戦とさまざまな苦難があったが、いずれも黒川住民の信仰と勤勉さによって克服、昭和五十一年には国の重要無形民族文化財に指定された。

全国的に知られる二月の王祇祭のほか、三月の祈年祭、五月の例大祭、七月の水焰の能、十一月の新嘗祭などがある。

現在、日本の農業はきびしい。黒川もその例にもれない。黒川能の伝承、保存の担点づくりのために地元では「保存伝承事業振興会」をつくり、ようやく「郷土文化保存伝承館」を建設。目下これらに係わる総合的な事業の推進のための寄付募金に努めているという。

なお、今回は能狂言上演のため、6名の方が黒川より上京の予定。



郷土からの短信

▼酒井忠明会長の前文にあつたように「鶴翔会館」は来年五月末に完成、創立百三周年の記念式典と竣工式典は平成三年七月一日の創立記念日に、竣工した

「鶴翔会館」で挙行の予定▼同窓会諸氏の作品を母校へどうぞー絵画・書道・写真等の作品を母校へご寄贈ください。作品は母校に大切に保存、校内展示するほか、各種行事、また「鶴翔会館」竣工の際に展示させていただきます。▼致道博物館の展覧会(二部)①宮廷の生活文化展 4・27～5・16 ②山形県の絵馬展 6・1～6・25 ③伝統的繊維展「庄内の漆工」7・19～7・30 ④西郷隆盛「人と書」 8・1～8・23 ⑤異色の画家 地主梯助の画業 9・1～9・24

郵便振替による 払込みについて

○東京鶴翔同窓会年会費
および6月22日の会費
(7,000円)の納入を
別紙の郵便振替でお願い
します。
なお、当日、受付でも
結構です。

●後記●



・卒業年次が2のつく人たちが幹事をやったのが10年前。こととして2巡目。42・52・62・72回卒の延べ30名ほどで第20回大会の準備を進めております。6月22日は、大勢参集、ガヤガヤやりましょう。行きとどかない点は予めお許しを。

なお、当日参加者の皆さんには記念品として「庄内・ササニシキ」をさし上げる予定。これは、20回大会を記念しての「庄内経済連」のご好意によるもの。72回生の皆さんのアイディアと尽力にも深謝。

・佐藤義三郎先生(ギッチャ)の追悼特集を考えましたところ、本部「鶴翔だより」も同様の特集をくんでおられました。なお、第三代会東京鶴翔同窓会長の相良守峯先生、旧職員の森村忠男先生のご冥福をお祈り申し上げます。

・第40回芸術祭賞に同窓会員から丸谷才一氏、藤沢周平氏のお二人が受賞。おめでとうございます。なお藤沢周平氏からは、同窓生としての原稿もいただきました。原稿をいただきました方、ならびに本大会のために快く広告をよせていただきました58名の方々、ありがとうございます。(W)